

政之助と取組んで

二十回を反省

(最終回)

毛利藩の安泰と、日本の前途を思い、保守革新両派の中に立ち、常に現実即した中道を行き、幾度か藩の危機を救われたが、遂に万策つき家臣後輩の反省を促すため、自刃してその志気を鼓舞された尊い心は、まことに偉業として残ったものである。

政之助の没後、やがてその訓育をうけた高杉晋作等の立上りによって、反対派俗論党は追われて、漸く藩論は統一された。幕府のお

こした第二次「長州征伐」の役において、幕府軍をむかえうって、岩国方面益田方面小倉方面ことごとく勝ち、天下の大勢は決した。ここで今迄一切の行きがかりを捨て、毛利藩薩摩藩の手をとり合って進むことが成り立ち、遂に明治維新のあけぼのを迎えることになった。

これはまさに政之助の一死をもつて、藩の重臣の反省を促し、又後輩を激励せられたことによるもの



周布政之助遺宅(浅田)
繁沢藤一郎氏(政之助孫)より浅田小学校に寄贈されたもの
(明治43年11月2日)

ので、意義深いものがある。
明治二八年正四位を贈られた。
明治二九年(一八九六)参拾三回忌の時、建碑の議が起り、碑文を井上馨が書いて山口市龜山に建立された。

次に昭和六年(一九三一)墓所に石碑を立てることになり「嗚呼長藩柱石周布政之助君碑」殿様の子孫毛利元昭公が書をかかれ、碑文は江木千之が作った。

更に昭和三年(一九五五)九月二六日、自刃の地山口市矢原で百年祭が挙行された。

政之助の曾孫公兼さんが昭和五年十月二七日(一九八〇)死去されたが、これより先政之助の遺品や関係資料が神奈川逗子市在住の周布家より、山口県、萩市、三隅町に寄贈された。

町では近く清風記念館を改修しその一部にこの貴重資料を公開することにしている。

天保の改革を推進した村田清風の跡を継ぎ、その一族の子として革新的政治家として安政以後に対処した政之助の遺品が同じ、記念館に陳列されることを感謝して、筆をおきます。

参考文献

- 明治四三年 政之助事蹟の大綱
- 防長史談会一卷七号
- 昭和六年 政之助翁伝
- 昭和五二年 政之助伝上下
- 文化財専門委員長斉藤元宣

次回から「ふるさと探訪コース」(教委決定 青年団立札掲示)を下地区中地区上地区の順に紹介します。
斉藤元宣

文芸

清風句会

新年句会作品から

(順不同)

齊藤 元

生かされて老の幸せ袖子の風呂

村岡 千代

真心を込めし手料理初め句座

岩本さつき

結び上げし髪の匂ひや松の内

岡 松月

初風や釣人二三漕ぎ出でぬ

笹見 梅雪

海の幸野の幸揃へお正月

山中 重代

初日の出山姿新たにすがしきよ

宮永ミネ子

父似かな母似かな孫の初笑い

宮垣ヒサコ

三代の顔揃へけり大福茶

上田 雪子

階段を振袖なでる初詣

因藤 兎史

子供より親の笑顔や凧作り

島に島重さねて瀬戸の初風ける
海賊を神とし祀り島の春

滝口 句一
縫初や家計を守る手内職
巫子らにもお守り売らせ神の春
田村 九重

大宰府神社にて二句
探梅や遅速のありて大き句碑
探梅の七八人連れ句友らし

今年初の句会を一月十八日老人センターの一室で行いました。当日は積雪深く欠席会員の多かったのは残念でしたが、新人の参加もあり仲々の盛会でした。現在、選者の先生を交渉中なので会員の互選で行いました。

とかく、理屈に走り易くギスギスした世情の中で、自然に心を遊ばせる一刻も亦、必要なのではないでしょうか。
新入会の方を喜んでお待ちしております。
(史)

人事異動

退職 (二月十九日付)
原田シズエ 用務員

行事予定

- 五・十九日 不燃物収集
- 四・十・十八・二十四日 不用回収・捕獲
- 七日 定例農業委員会
- 十一日から 定例町議会
- 下旬 嘱託員集会
- 三隅土地改良区 通常総代会
- 環境衛生巡回指導